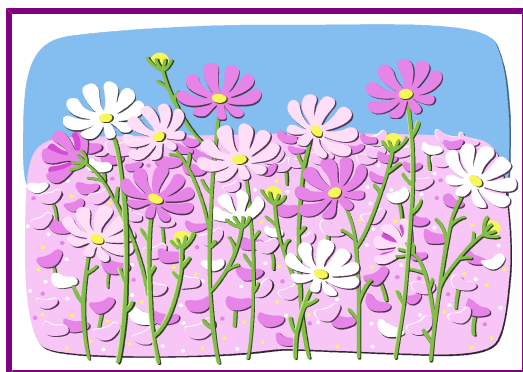


# めぐみイエス・キリスト教会

2018年9月23日(日) 第四主日礼拝  
週報「通算第424号」



## 2018年標題聖句

### 使徒の働き27章22節～26節

《「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～6時45分
聖書研究・祈祷会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年9月23日(第四主日礼拝)

第一礼拝 午前10時～11時

司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

第二礼拝 午後6時～6時45分

司会 鈴木竜実牧師 奏楽 鈴木竜実牧師

### ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌343「罪に満てる世界」 p. 546

【交読文】 No.15 詩篇第40篇 p. 890

【賛美Ⅱ】 新聖歌325「歌いつつ歩まん」 p. 515

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2 「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書15章26節～27節(新約p. 194)

【祈 禱】

【説 教】 《真理の御霊が来る時》

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(ヨハネの福音書15章26節～27節)

15:26「私が父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊が私についてあかしします。

15:27 あなたがたもあかしするのです。初めから私と一緒にいたからです。」

### ●ポイント1 「真理の御霊」とは？

※ヨハネの福音書14章16節～17節「最初の啓示」 (新約p.192上段)

「私は父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、共におられるためにです。その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたと共に住み、あなたがたのうちにおられるからです。」

※ヨハネの福音書14章26節 「二度目の啓示」 (新約p.192下段)

14:26 「しかし、助け主、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、私があるあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

●ポイント2 「あなたがたも証しするのです」とは？

※マタイの福音書10章16節～20節 「十二使徒の派遣」 (新約p.16下段)

「いいですか。私が、あなたがたを遣わすのは、狼の中に羊を送り出すようなものです。ですから、蛇のようにさとく、鳩のように素直でありなさい。

人々には用心しなさい。彼らはあなたがたを議会に引き渡し、会堂でむち打ちますから。また、あなたがたは、私のゆえに、総督たちや王たちの前に連れて行かれます。それは、彼らと異邦人たちにあかしをするためです。

人々があなたがたを引き渡したとき、どのように話そうか、何を話そうかと心配するには及びません。話すべきことは、そのとき示されるからです。というのは、話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあつて話されるあなたがたの父の御霊だからです。」

※使徒の働き1章8節「オリーブ山へ向かう道のりにおいて」(新約p.208下段)

1:8 「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、私の証人となります。」

●ポイント3 「弟子たちの、そして私たちの使命」とは？

※エゼキエル書3章17節～21節「エゼキエルへの言葉」 (旧約p.1251上段)

※第一ヨハネ5章6節～13節 「永遠のいのち」 (新約p.431下段)

[一度生まれた者は二度死ぬ。しかし二度生まれた者は一度しか死なない。]

## ◎先週のメッセージの概要【私の名のゆえに】

《「しもべはその主人にまさるものではない、と私が言った言葉を覚えておきなさい。」この言葉は、最後の晩餐の途中、イエス様が弟子たちの足を洗われ、その直後に言われた言葉を再度示しているのです。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさるものではありません。」

これは預言であって、人々がイエス様を迫害したならば、やがて弟子たちも、迫害することを意味しています。

イエス様は、「これは、『彼らは理由なしに私を憎んだ。』と彼らの律法に書かれている言葉が成就するためです。」とも言われました。

この預言は、ダビデによる詩篇35篇に書き記されています。

『真に彼らはゆえもなく、私に密かに網を張り、ゆえもなく、私の魂を陥れ様と穴を掘りました。ゆえもなく私を憎む人々が目くばせしない様にして下さい。』

実際には、パリサイ人や律法学者そして祭司長たちは、「ねたみ」のゆえにイエス様を迫害したのです。その陰には、まことの神様と御子イエス様を憎む、闇の勢力が存在することを、先週学びました。その人格を持った邪悪な存在が、神様に敵対し、主イエス様に従う者たちをも攻撃しているのです。

さて、イエス様は「私の名のゆえに」と言われました。実はこの言葉も預言であって、しかも二重の意味を持っています。

一つは、ペテロとヨハネが、美しの門で乞食をしていた、生まれつき足の不自由な男を、主の御名によって癒やし、その為ユダヤの指導者に捕らえられ、次の日、彼らの面前において、ペテロが弁明した時に成就しました。

そしてイエス様は、さらなる先見の目を持って、やがてご自身を信じる者たちが、「クリスチャン」と呼ばれるようになることを預言されたのです。

アンテオケにおけるバルナバとパウロの働きから、キリストに属する、あるいは、キリストに従う者として、「クリスティアノス」と呼ばれる様になりました。

この時から、主イエス様を信じる者は、迫害を受けることになるのです。》

## ◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、9月30日(日)第二礼拝(午後6時)のみとなります。第一礼拝は行ないません。10月7日(日)からは、通常通りとなり、二部礼拝に戻ります。
2. 次回の聖書研究・祈祷会は、9月26日(水)午後6時15分です。